

ここ
大事

多機関連携で自殺予防からの農福連携 ～誰もが暮らしやすい地域を目指して～

安芸市農福連携研究会
公文一也

ノウ フク

農業と福祉がつながって、日本を元気に！



事例①H26年5月 安芸地域の農福連携が始まる

30代男性 10年ひきこもり 生活困窮



生活困窮の彼との出会い
所持金0円
道に生えているカラスのエンドウ
を食べて飢えをしのいでいた。
安芸市の保健師、社協の職員と農
園へつないだ
これが農福連携の始まりだった！



平成30年5月安芸市農福連携研究会を設立

★この研究会は農福連携を推進するために
地域に生きづらさの理解を拡げていくための会

★参加機関：JA高知県安芸地区（会長）、安芸市農林課（事務局）、安芸市福祉事務所
安芸市地域包括支援センター、高知県安芸農業振興センター、
高知県安芸福祉保健所、障害者就業・生活支援センター、
地域若者サポートステーション、県立山田特別支援学校田野分校
(毎月1回開催)

【検討事項】

- 各機関の情報共有
- 就労へのマッチング
- 生きづらさや障害の理解の勉強会を開催
- 農福連携の普及・啓発事業の開催

【生きづらさ理解の研修会等の開催】

- ・H30年8月～はじめよう農福連携～講座
- ・R1年6月～農福連携高知県サミットinあき
- ・集荷場や各種農業の体験を実施（6名採用）
- ・R1年10月、JAが就労サポーターを雇用して障害者の就労定着強化を進める

R7年4月現在 協力農家34戸 就労者107名



就労定着支援の流れ

地域協議会（就労支援専門部会や農福連携研究会）の支援機関に相談が来る

↓ 必要な支援を整理する（住居、経済面、家族関係等）

地域協議会でマッチングケース会議を実施（月1回）

＋連携先の関係機関は随時就労のマッチングを行う

↓ お仕事体験10日間（就労体験拠点設置事業）を活用

＋JAの農業就労サポーターを活用

支援機関とサポーターと一緒に定着支援を開始

↓ ※サポーターは毎日同行支援（支援機関との情報共有は必ず行う）

就労定着

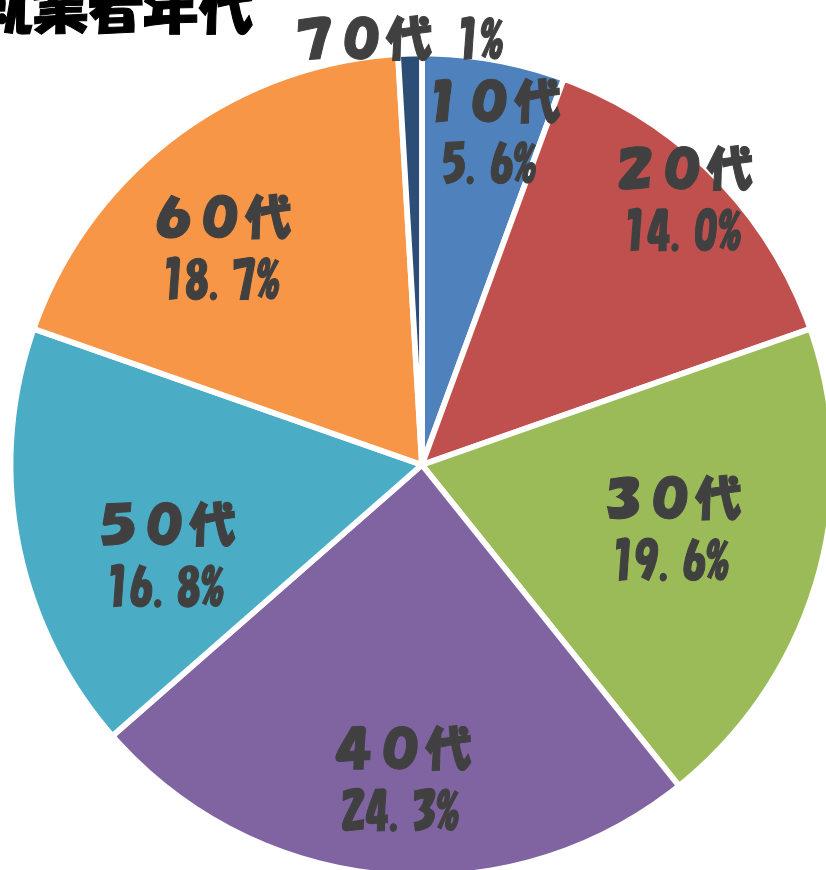
※定着後もサポーターと支援機関は農家を訪問して農家と当事者の
フォローを行う



就労者の年代別・疾患別（107名内訳）

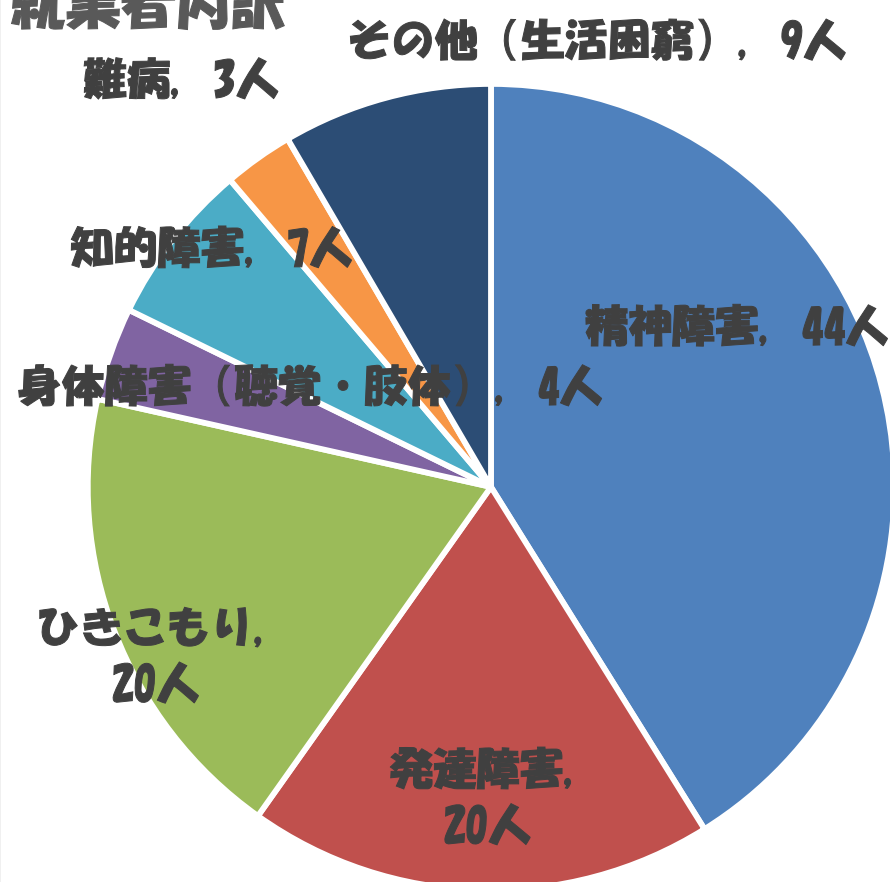
比較的若い年代が多い

就労者年代



様々な障害に対応している

就労者内訳



安芸版農・林・水・商・法・仏・福連携ケアシステム

誰もが安心して自分らしく暮らせるまち=地域づくり

